

こむぎ通信

令和6年3号

小麦の生育が大幅に早まっています。赤かび病の適期防除を徹底し、罹病粒混入による落等及びかび毒汚染の防止に努めてください。

1 生育状況

県生育観測ほの出穂期は平年より7日早い5月12日で、地区生育観測ほは平年より12日早い5月10日であった。

草丈は、県生育観測ほ、地区生育観測ほとも平年を上回り、 m^2 当たり茎数は、県生育観測ほは平年より少なく、地区生育観測ほは平年を上回った。

うどんこ病、赤さび病の発生は少ない。

生育調査結果

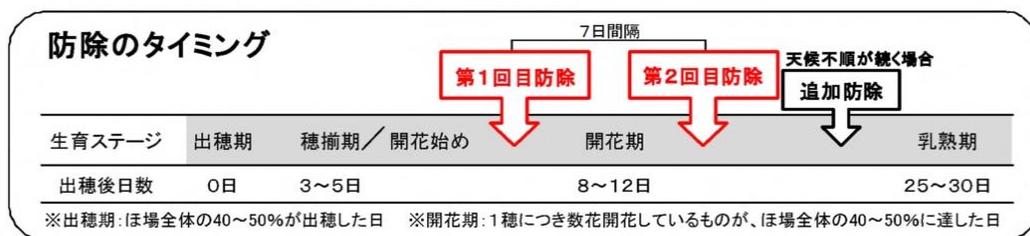
品種：ネバリゴシ

地点名	年度	5月10日		生育ステージ	
		草丈 (cm)	茎数 (本/ m^2)	出穂期	開花期
県生観	本年	67.7	869	5月12日	—
十和田市	平年	52.3	894	5月19日	5月27日
相坂	平年差・比	129%	97%	7日早	—
地区生観	本年	77.0	730	5月10日	—
十和田市	平年	51.3	565	5月22日	5月28日
赤沼	平年差・比	150%	129%	12日早	—

※平年は、県生観：平成23年～令和5年産、赤沼：平成19年～令和5年産の平均値

2 防除対策

赤かび病菌は開花から10日程度の間で感染しやすいため、開花始め～開花期に第1回目の防除を、その7日後に第2回目の防除を行う（下図参照）。また、最初の発病部から二次伝染するので、2回目の防除後に天候不順が続く場合は、追加防除を実施する。



※ 注意事項

- (1) チオファネートメチル剤（トップジン M 水和剤等 [FRAC:1]）は、耐性菌が出やすいので連用しない。
- (2) 紅色雪腐病が発生したほ場ではチオファネートメチル剤は使用しない。
- (3) うどんこ病等の対策としてアミスター20フロアブル [FRAC:11] を散布した場合、かび毒の産生量を増加させた事例があるので、出穂後は使用しない。
- (4) 刈り遅れは、かび毒の産生を助長する原因となることから、適期収穫を確実に行う。

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★